

龍ヶ崎市第19代市長

中山一生市長 就任挨拶



昨年12月24日(日)の龍ヶ崎市長選挙において、多くの市民の皆様のご信託をいただき、本年1月18日に龍ヶ崎市長として三期目をスタートすることができました。

改めてその重責を厳粛に受け止め、「子育て環境」「市民活動」「防災・減災」「スポーツ健康」の4つの日本一の政策、駅名改称を含めたJR佐貫駅を中心とした利便性の向上や賑わいの創出、新都市拠点エリアの土地利用や市民霊園の具体化など、二期8年で進めてきた取り組みや選挙戦を通して訴えてきた政策、中長期的な視野も踏まえ、着手できる政策を着実に進めながら、一つ一つ実現に向けて大きく前進する4年間にしていきたいと思います。

また、大切な公共施設の「縮充」も、給食センターの統合や複合的な福祉施設など、市民サービスの充実と将来負担の縮減に向けて、確かな道筋をこの4年間で付けてまいります。

8年前、私が就任した当初の本市の財政状況は、底を打ったとも言える厳しい状況にありました。その後市が一丸となって財政の健全化に向けて努力を重ね、危機的状況を脱却しました。これまで市の歴史的懸案であった、さまざま

な課題解決にも挑戦し、環境が整った今こそ、未来への大きな飛躍のために、これまでの努力によって蓄えられた力を反発力として、勇気をもって力強いステップを踏み出す時であると、決意を強めています。

その一つが、道の駅の整備です。牛久沼の豊かな自然と水辺の空間を活かした、市民の皆様が「自慢したくなる」新たな名所として、市外からも目的地として足を運んでもらえるような、他にはない道の駅を目指します。

また、道の駅を本市のシティプロモーションの基点として、龍ヶ崎市の魅力や農産物・物産品等を発信しながら、生産者の出荷・生産意欲を喚起していく場、さらには新たな物産品など、ヒット商品を次々産み出す舞台とし、その賑わいを市内全域に広げてまいります。

さらに、牛久沼周辺5市に河内町を加えた広域的な連携も強化し、牛久沼をこの地域の魅力の発信源とし賑わいを広域に広げていく基点として、また茨城県にとってはゲートウェイとして、この道の駅の可能性を高めてまいります。

平成の元号が新しい元号に改元される来年の2019年には、本

県で45年ぶりとなる国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」が開催され、本市は柔道競技の会場となっています。同じ年には我が国初のラグビーワールドカップも開催され、その翌年2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。本市出身の岡野功選手が柔道金メダルを獲得した、前回の東京オリンピックから56年。本市は事前キャンプ地として、キューバ共和国とオセアニア地区の柔道競技・タイ王国の陸上競技の選手団を招聘し、世界のトップアスリートが滞在する予定です。

本市においても、国・県を挙げたの歴史的なイベントを、子どもたちをはじめ、市民の皆様とともに直接体感し、交流しながら、大いに盛り上げ、知名度の向上、そして大会後のレガシーに繋げてまいります。

今こそ「天の時」であると決断し、龍ヶ崎の「地の利」の優位性を活かし、強い市民力「人の和」と力を合わせ、あらゆる課題に全力でぶつかっていくことをお誓い申し上げて、就任にあたっての所信とさせていただきます。

龍ヶ崎市長 中山一生